



ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



〈スクーリング札幌会場での称号授与式〉



〈道民カレッジ大学放送講座スクーリング（大滝村会場）〉



〈スクーリングでの質疑・応答（札幌会場）〉



〈称号取得者のための「学習成果活用セミナー」〉

目次

●平成17年度事業計画の概要 …………… 2	●視聴覚センターからのお知らせ …………… 6
●平成17年度道民カレッジ事業のご紹介 …… 3	●新会員紹介 …………… 6
●平成16年度生涯学習実践記録・研究論文 入選者、最優秀作品審査講評 …………… 4～5	●事務局からのお願い …………… 6
	●編集後記 …………… 6

平成17年度 事業計画の概要

3月29日(火)に開催された平成16年度第2回評議員会・理事会において平成17年度の事業計画が承認されました。事業の概要は次のとおりです。

事業名	内容
1. 生きがいづくり生涯学習促進事業 「人生を共に豊に過ごすために」 (継続)	国際化、高齢化、情報化等社会の変化に対応し、生涯にわたって生きがいのある人生を送るために、「いきることはまなぶこと」の視点から、道民の方々に学習の機会を提供する。 期間 5月～12月 会場 全道14教育局管内毎1会場 参加対象 一般道民 (聴力障害者の方々のために、手話通訳者を配置する。)
2. 広報紙発行事業 (継続)	会員及び生涯学習に関係する機関・団体・個人指導者に、広報紙を通して実用性ある情報を提供し、生涯学習の振興に寄与する。 年4回発行 1回 1,400部
3. 生涯学習研究論文等募集事業 (継続)	生涯学習推進方策についての研究・実践あるいは、未来への展望などについての論文・記録を募集し、入選作品を発表する。 募集期間 10月～1月 最優秀作品 1編 優秀作品若干
4. 特選視聴覚教材鑑賞事業 (継続)	視聴覚センターで保有する視聴覚教材のうち、新たに整備したビデオ作品等を一般に公開し視聴覚教材のPRに努め、利用の拡大を図る。 開催期間 10月、3月(年2回) 会場 かでの2・7 参加対象 一般道民
5. 地域づくり人づくり事業 (継続)	地域振興のため地方学習の機会を提供し、地域のまちづくり人材育成に寄与する。 講演会等 期 日 9月～12月 (2会場) 場 所 (未定) 参加対象 一般道民
6. ブックスタート推進事業 (継続)	基礎学力の向上や子育て支援の観点から、道内における「ブックスタート」の早期普及拡大を図るため、導入市町村に対し必要な助成を行う。 ○補助事業
7. 「ほっかいどう学」かでの講座事業 (新規)	新たにスタートする「ほっかいどう学」の推進のため、かでの講座を開設し、道民への学習機会提供の拡充を図る。 なお、講座の開設にあたっては、道民のニーズや今日的な課題に焦点を当て、新たな北海道の創造を目指す講座を提供する。 ○講座回数 6回 ○開催期日 10月～1月 ○会場 かでの2・7 ○講座時間 1講座2時間 ○講師 札幌市内を中心に講座のテーマに合った講師
8. 「ほっかいどう学大学放送講座」支援事業 (新規)	広く道民の学習活動を支援するため、大学放送講座のテキストを作成し、新たな「ほっかいどう学」の取組である地域の学習活動への活用を図る。 ○作成部数 1,000部 ○発行時期 8月下旬
【特別会計事業】	
9. ほっかいどう生涯学習ネットワーク カレッジ(道民カレッジ)事業 (継続)	学習ニーズの多様化、高度化に対応するため、学ぶ意思のある道民のすべてを対象とし、産学官が連携して総合的な学習機会を提供するとともに自立した北海道の創造に寄与する人材を育成する。 ○運営委員会 委員15名 年3回 運営全体 連携講座の在り方 普及啓発の検討 ○評価・活用検討部会 委員6名 年5回 単位認定基準 単位互換制度の研究開発 人材育成プログラムの開発 ○道民カレッジ連携講座 講座数(前期・後期合計) 1,200講座 学生目標数 19,000人(現在15,100人) ○普及啓発・情報提供 ・道民カレッジガイドブック作成 ・募集ポスター、パンフレットの作成 ・カレッジ手帳の作成 ○主催講座 1 道民カレッジ「ほっかいどう学大学放送講座」 放送回数 8回 放送開始 17年10月 参加者 一般道民 2 「ほっかいどう学」出前講座 12回 参加者対象 放送講座受講者と一般道民
10. 生涯学習情報資料の展示・提供事業 (まなびの広場) (継続)	生涯学習に関する図書・資料パンフレットなどを展示・提供及び道内市町村・団体の生涯学習への取組や成果等を紹介。 ○ビデオリファレンスコーナー (ビデオ・LD・エルネット) ○道民カレッジ情報コーナー (ガイドブック・パンフレット・ポスター及び連携講座関係資料) ○ふるさとコーナー (道内市町村の広報誌及び情報パンフレット) ○展示コーナー (道内市町村及び団体の生涯学習活動における実践・成果等を展示)
11. 教材貸出事業 (継続)	学習活動に必要な視聴覚教材を収集・整備し、道内市町村視聴覚ライブラリーのリファレンスサービスを補完、支援するとともに、視聴覚教材を用いた学習活動の普及と活性化を図る。 ○視聴覚教材貸出
12. 視聴覚教材制作事業 (継続)	北海道の地域性や課題を踏まえた映像教材の制作を行い、地域の学習活動を支援する。 ○教材制作
13. 地域視聴覚教材制作研修講座 (継続)	コンピュータによる映像編集の基礎的・基本的な知識や技術の習得を図る。 期 間 9月上旬 3日間 会 場 札幌大学 人 員 30名 参加対象 学校教育・社会教育関係者・視聴覚教材制作に関心のある道民
14. ビデオ映像教材制作専門講座 (継続)	映像教材を制作する際の企画、シナリオの作り方やカメラワークをはじめとする撮影技術について学ぶ機会とする。 期 間 6月中旬 3日間 会 場 かでの2・7 人 員 30名 参加対象 学校教育・社会教育関係者、市町村広報担当者

平成十七年度 道民カレッジ事業のご紹介

●平成十六年度実施状況
(平成十七年二月末現在)

【学生数】

- ◇一五、一三九名
- ・ 男性 六、三三〇名
- ・ 女性 八、八一九名

【称号取得者数】

- ◇道民カレッジ修士 五九名
- ◇道民カレッジ修士 二五名
- ◇道民カレッジ博士 一三名
- ◇レポート数 一、八五七名
- ◇スクーリング参加者数 七三二名
- ◇平均視聴率 一・八%

【連携講座】

- ◇連携講座数 一、二五六講座
- ※平成十七年度前期(ガイドブック掲載分) 四六七

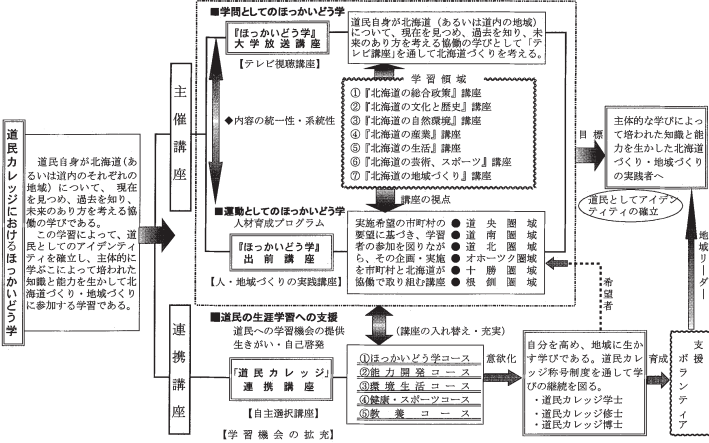
来年度の新たな取組

道民カレッジ事業は、来年度で五年目を迎え、道民の皆様のご支援・ご協力により、順当に拡充・発展して参りました。

この事業は、道民カレッジの普及啓発期から学習機会の拡充期をへて、来年度からは、「人材育成プログラム」の開発へとシフトして参ります。

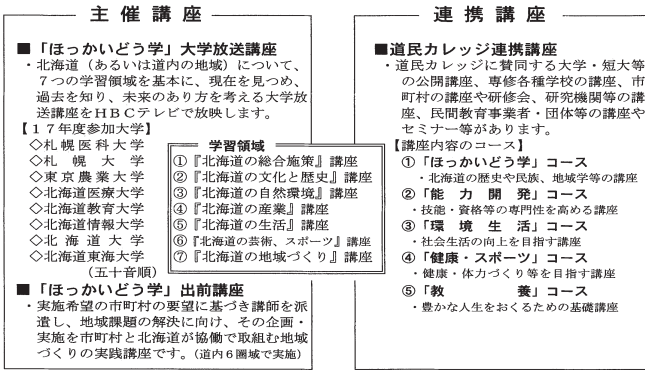
また、平成十五年の道生涯学習審議会答申、「道民カレッジにおける『ほっかいどう学』の提供」についての提言を受け、『ほっかいどう学』を基軸とした新たな道民カレッジ事業がスタートいたします。

◎「道民カレッジ」における『ほっかいどう学』の体系化



主催講座と連携講座

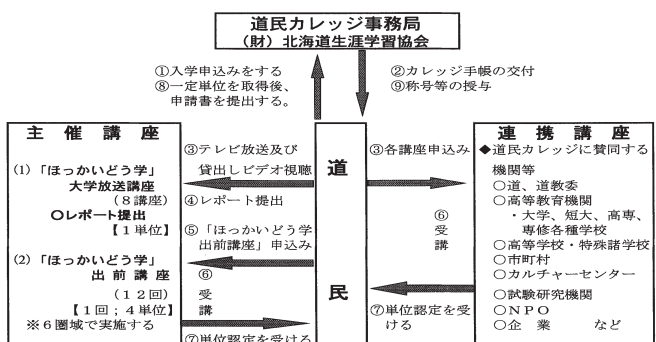
★いつ、どこで、どんな講座が開設されているかは、ガイドブックを参照してください。



『道民カレッジ』が新しく変わります！

入学、受講のシステムについて

ガイドブックに添付してあります入学申込書を道民カレッジ事務局に、返信用切手(140円)を同封の上郵送、または持参してください。入学者には、「道民カレッジ」手帳を無料でお渡しします。入学後、ガイドブックを参考に希望する講座に受講申込みをします。



1 「ほっかいどう学」大学放送講座
北海道の地域課題や今日的な課題を中心とした「ほっかいどう学」の番組を制作し、北海道放送でテレビ放映します。

来年度は、札幌医科大学・札幌大・東京農業大・北海道医療大・北海道教育大・北海道情報大・北海道大・北海道東海大の八大学が参加して実施します。

2 「ほっかいどう学」出前講座
スクーリングから「出前講座」へ変更となります。従前の講義形式からグループ討議等のワークショップを取り入れた参加型学習プログラムによる講座です。実施希望の市町村や団体のニーズに

応えて講師を派遣し、地域課題の解決に向けて取り組む生涯学習を支援します。

3 新たな単位認定と奨励賞の授与
従来大学の放送講座の視聴によるレポート提出で一単位を認定することに加えて、「テキストの購読」や来年度から始めます希望市町村への「貸出録画ビデオ」の視聴によるレポート提出でも一単位を認定することになります。ご活用ください。

称号取得に関わり、学士(一〇〇単位)、修士(二〇〇単位)、博士(三〇〇単位)に加えて、コースに限らず取得単位の総数が一〇〇〇単位に達した場合、申し出により『学長奨励賞』を授与します。

4 大学放送講座録画ビデオの貸出
市町村教育委員会からの希望があった場合に限り、大学放送講座「録画ビデオ」を無料で貸出します。

例えば、市町村で録画ビデオ視聴とレポート記述による「大学放送講座ビデオ研修会」の開催等にご活用ください。レポート提出により必修一単位を認定します。

5 新たな道民カレッジ手帳の発行
カレッジシステムと単位認定基準の変更に伴い、道民カレッジ手帳を新たに発行することになりました。また、称号取得者には、手帳の表紙を色分けいたしました。

ご希望の方は、道民カレッジ事務局にご連絡ください。お取り替えいたします。

平成十六年度
生涯学習実践記録・
研究論文入選者名簿
(平成十七年二月二十五日決定)

最優秀賞

・わたしの生涯学習（ボランティア）
「学び続けることの大切さ」

標茶町 佐藤 恵子

優秀賞

・学び続ける理由―虐待でなく愛情の連鎖を

浦河町 川村 直子

・地域学「しもかわ学会」の生涯学習の可能性と今後の展望

下川町 我孫子 洋昌
小倉 龍生

佳作

・自己の生涯学習の経過を見直し、これからの学習のあり方を考える

北見市 早坂 惇司

・「IT活用による高齢者の生涯学習向上」

札幌市 小島 詩織



最優秀賞を受賞された佐藤恵子さん（中央）

「学び続けることの大切さ」

標茶町 佐藤 恵子

私が、初めてボランティア活動をしたのは、中学一年生の時でした。きっかけは、「町内のお祭りの販売ボランティアと一緒にやらない？」と、友達から誘われたという単純な理由からでした。私は、ボランティアなんて「偽善」だと、ずっと心の中で思っていました。それは、他人のために笑顔で、お金も貰わないで、ただ疲れるだけなのに真剣になって働けるのだろうか、という疑問が心の中にあつたからです。

しかし、販売ボランティアを実際にやってみると、私が心の中で抱いていた考えとは違い、とても新鮮なものでした。それは、お客さんの笑顔を見ることができたり、励まされたりと、私自身大変勇気づけられたからです。私は、初めてのボランティアで、「寒いけど頑張つてね。」とか「ありがとう。」などと温かい言葉をかけていただき、感謝される喜びを感じました。そして、その日から自分も「人の役に立ちたい。」「誰かの喜ぶ笑顔がみたい。」と強く思うようになってきました。こんな気持ちになれるボランティア活動を、これからも続けていこうと心に誓いました。

その後、私は地元の標茶高校に進学しました。部活動は、ずっと「ボランティア部」に入部しようと決めています。それは、中学時代から思いついてきた、「人の役に立ちたい。」「誰かの喜ぶ笑顔がみたい。」という理由からでした。

標茶高校ボランティア部では、代表的な活動として、年二回「釧路養護学校と

の学習交流会」が行われています。春には標茶高校の生徒が養護学校に行き、グループに分かれて一緒に花壇作りをします。また、秋には養護学校の生徒が標茶高校に来て、ペアになって収穫体験などをします。私が初めて参加した時は、どう行動したらよいか全然分からなくて、迷惑をかけてばかりでした。しかし、毎年参加していくうちに、自分から声をかけたりすることができるようになりました。養護学校の子どもたちからは、「偏見を持たれていても前向きな姿」、「純粹であること」などを教えられました。

また、町内で行われた「福祉運動会」にも参加しました。この行事には、中学生の頃から参加していました。このボランティアは、お年寄りや視覚障害者の方や、聴覚障害を抱えている方と一緒に競技に参加したり、チャリティーバザーの販売をしたりするものです。それらの活動を通じて私は、「ボランティアは、一人でやるものじゃない。」ということを実感しました。

私は、ボランティアのことが、もっと好きになり、もっと深く知りたいたいと考え、ボランティアの学習会に参加することにしました。それは、中高生ワークショップといって、地域に貢献できる人材を育成するボランティア育成事業活動です。内容は、「なぜ、ボランティアをするのか?」、「ボランティアから学んだこと」などについて意見交換したり、子どもからお年寄りまで楽しめるゲームをしたりと、とても勉強になりました。

しかし、参加者の中には、「先生に言われたから来た。」「内申書のために来た。」という人が何人かいました。私は、この言葉を聞いた時、とてもショックを受けました。「なんで内申書のためだけにボランティアをするの?」、「ボランティアは人のため、自分のためにするのではないの?」と考えました。しかし、以前に心の中で、「偽善じゃないのか?」と考えていた私には、何も言えませんでした。そんな疑問を抱えたまま、ワークショップは進んでいきましたが、その人たちはだんだんとボランティアに対して、真剣になっていきました。そこで、私は一つ一つの結論が見えてきました。最初のきっかけは、内申書のためかもしれないけど、相手に「誠意」をみせることで新しい発見、ボランティアの良さが見えてくるのだということです。つまり、ボランティアに取り組みむきっかけは何でもよく、その過程において、どのくらい相手に「誠意」を示すことができるかが大切であるということです。

そして、高校一年の秋、私にボランティア部の部長の話が飛び込んできました。私は、「やる気」さえあれば大丈夫、やっていけるだろう!と思っていました。最初のうちは、みんなが協力的で、これなら先輩が築き上げてきた伝統を守れるだろうと自信を持っていました。しかし、私が考えていたほど甘くはなかったのです。部員は同級生だけで、「部長なんだから頑張りなよ。」などと勝手なことばかり言います。私は、初めて部員をまとめていくことの大変さを知りました。すぐに自信をなくしてしまい、そんな私をみて先輩が声をかけてくれました。

「部長は大変だけど、やりがいのある役職だよ。大丈夫だから自信を持って！」と私の背中を押してくれました。私は、先輩の言葉を胸に込めて精一杯、自分ができることを頑張りました。そのこともあり部員は協力的になり、四月には一年生が入部してきました。最初は、少なかつたのですが、だんだん増えてきて私は、やる気ができました。

また私は、二年生の後期から農業クラブ執行部の役員になりました。農業クラブの活動からは、環境に関するボランティアがあることを学びました。その活動には、「釧路湿原クリーンデー」という湿原をきれいにする活動が挙げられます。釧路湿原は国立公園に指定されているにもかかわらず、粗大ゴミの不法投棄やジュースの缶やタバコのポイ捨てが、たくさんあります。私は、もつと湿原をキレイにしていきたいと思います。その他にも、コスモスゾーン造成といつて、標葉町の花であるコスモスを育てていくという活動などもあります。

私は農業クラブの活動を通して、環境を守ることの大切さ、ボランティアは福祉だけではなくことを学びました。農業クラブ執行部の役員になって、もつとボランティアに夢中になりました。

ボランティアは、私を成長させてくれました。ボランティアを通じて私は、「責任感」や「自信を持つことの大切さ」を学び、だからこそ私は、このボランティア活動で学んだことを、将来に役立てたいと思っています。

私の夢は、幼い頃から介護福祉士になることでした。きっかけは、身内が入所していた老人ホームに行き、そこで働く

介護福祉士の姿をみたことにあります。ときばきと動き、とても忙しいのに一人一人に優しく接している姿を見て憧れを持ち、私も「介護福祉士になりたい」と強く思ったのです。

高校一年の冬季休業での体験実習を通して、理想と現実の違いに悩み始めました。それは仕事が、ハードなこと。積極的に話かけれない自分の未熟さ。とにかくポロポロでした。「私には、介護なんて無理だ」と諦めかけていると私を見て担任の先生は、「夢を諦めるのか？お前は本当にそれでいいのか？」と私の背中をポンと押してくれました。また、実習先の老人ホームで一人のお年寄りの方が、「これから頑張つてね。あなたなら大丈夫。」と言われたことを思い出しながら夢に向かって、もう一度頑張ることにしました。

少しでも夢に近づきたいと思い、「ホームヘルパー二級」の取得にもチャレンジしました。しかし、学校の授業に毎回の大量のレポート、実技講習、訪問実習は私にとって大変なことでした。しかし、担任の先生の言葉、老人ホームのお年寄りの言葉を胸に精一杯やりました。そして、三ヶ月後に無事取得することができました。また、訪問実習は基礎から応用までやり、介護のやりがいを多く感じたことを覚えています。夢を諦めないで良かったと心から思いました。

そして、私は、四月から老人ホームで介護職員として働きます。そこでは、高校で学んだ「責任感」や「積極性」を生かし、お年寄りの方々と早く馴染んでいきたいと考えています。

今の私は、まだまだ未熟で、自分が憧

れていた介護福祉士の姿にはまだ遠いけれど、学んだことを発揮しながら精一杯頑張りたいと思っています。そして、私を成長させてくれたボランティアも続けていきたいです。最初は、ボランティアをする余裕はないかもしれませんが。しかし、どんな小さなことからでも、活動したいと思っています。もちろん私の仕事は「介護」であつて、「ボランティア」ではありません。しかし、私は、地域でできるボランティアを、学んできた率先力などを生かして、行っていきたいと思っています。

私の将来像としては、三年後に介護福祉士の免許を取得し、私を支えてくれたお年寄りに、定年まで貢献していきたいと思っています。その間も、「花いっぱい運動」とか「ゴミ拾い」といった環境的なボランティア活動、障害を抱えた子どもたちと一緒に遊ぶボランティアや高齢者のお宅に訪問して話をする訪問ボランティア活動といった福祉的なボランティア活動を、時間をかけてやっていきたいと考えています。今は、まだ十八歳ですが三十、四十、そして、80歳になつてもボランティアをしたいという気持ちはあります。私を今まで支えてくれた人たちはたくさんいます。家族、先生、友達、社会福祉協議会のみなさん、まだまだ私を支えてくれた人たちはいます。その人たちのためにも、私は社会に貢献していきたいです。

私の生涯学習は終わりません。学び続けることの大切さを知ることができたからです。これからも学び続けていきたいと考えています。支えてくれた人たちのために……。

審査所感

審査委員長 高倉 嗣 昌

今年の応募数は昨年より五編多い十七編であつた。今年も昨年と同じ内容の三本のテーマで応募を求めたが、「わたしの生涯学習」が九、「これからの生涯学習」が七、「わがまちの生涯学習」が一であつた。

階層別に応募者を見ると、今年は今までにない特徴を指摘できる。まず応募者の平均年齢が、六十歳であつた昨年より二十歳も若くなつたことである。とくに十八、二十歳までの人が七人を占めた。生涯学習への関心が若い人にも広がつて来た証として、大変喜ばしいことである。次に多かつた年齢は六十歳以上の五人で、老若両極に分れた。

性別では女性が七人で全体の四割に達する高率であつたし、職業別では従来最多のことが多かつた無職の人五人をこえて、高校生、大学院生が八人に達したことである。他に教員からの応募が二であつた。地域別では昨年一編もなかつた札幌圏からの応募が七編で四割を占めた。

選考基準は例年と変更はなく、生涯学習に関する理解度、実践活動の実生活への定着度や影響力、将来への展望や提言の内容、記述・論述の流れ、論旨の一貫性、文章力などを総合的に評価した。今年も論旨の一貫性や文章力などでとくに問題のある作品はなく、ハイレベルであつたと評せられる。入選は五編であつたが、最優秀と優秀の中の一編が「わたしの生涯学習」から、残る優秀の一編は「わがまちの生涯学習」から、佳作の二編は「これからの生涯学習」から選出された。五編のうち三編は十八歳の女子高校生のものである。残る二編のうち一本は、毎年異なる実践活動等を素材として論文を寄せられる方で、審査員として頭がさがる思いである。

最優秀の作品は、中学時代からボランティアに関心をもち、高校をベースとした身体障害者へのボランティア活動を通じ、自分の生涯をかけて取り組む仕事を見出し、いく過程が描かれており、心を打つものがあった。地域の力が生み出した作品と言える。

視聴覚センターからのお知らせ

☆第五回北海道映像メディアコンクール結果決まる!

当センターに事務局を置きます、北海道視聴覚教育振興協議会主催の「第五回北海道映像メディアコンクール」の表彰式が二月十八日に「か」である2・7において行われました。今年度を以て協議会が解散となるため、今回が最後となります本コンクールでしたが優秀賞三点、入選二点、奨励賞五点の合わせて十名の映像作品が合田一道審査委員長（日本放送作家協会北海道支部事務局長）をはじめとする六名の審査委員によって選定されました。なお、各賞の受賞者は次の方です。

【優秀賞】

「生きる糧は大木」

江別市 森 繁寿

「斉藤リンゴ園」

札幌市 海老名 名保

「アイヌの食用植物」

十勝開拓とアイヌ歴史研究会

【入選】

「匠の技（一本曲げかんじき）」

留萌市 有沢 準一

「五十九年目の帰郷」

福島町 金谷 奉宏

【奨励賞】

「情報モラルについて考えよう」

帯広市教育研究所

「天と海忌・詩人浅野晃をしのぶ」

田んぼ de com.com

「蜂の巣駆除」

由仁町 吉田 秀利

「昔ながらの伝統の味(きびだんご)」

栗山町 久保 智哉

「それ引け!最北の地引き綱」

稚内市 妹尾 克利



(森繁寿さんの優秀賞受賞の様子)

☆新着ビデオ・DVDのご紹介

生涯学習や学校教育で活用いただけるビデオ教材を新たに作り揃えましたのでその一部をご紹介します。

【教育・福祉】

『食事ケア・排泄ケア』他

【教 養】

『照子(DVD)』他

【産業・技術】

『職場におけるメンタルヘルス』他

【芸術・芸能】

『がんばれスイミー』他

【体育・スポーツ】

『ファーストエイド』

【家庭生活・趣味】

『STOP HIV/AIDS』他

【市民生活・国際理解】

『危ない!運転中の携帯電話』他

【学校教育】

『学校の危機管理』他

☆自主制作視聴覚教材完成!

平成十六年度の自主制作視聴覚教材「食べる事から始まる心と体の健康ー家庭教育と地域活動ー」VHS(二十分)がこのたび、完成しました。この作品は、近年特に重要な教育課題の一つとして挙げられている「食育」に焦点をあて、帯広で永年にわたり夫婦で独自の「食育」活動を行っている村田夫妻の取組や帯広市主催の『帯広っ子農業体験学校』の取組の様子を取材し、家庭における『食』を通じた家族間のコミュニケーションの大切さを訴える内容となっております。研修用教材として、是非お役立て下さい!

新会員紹介

次の方々新たに賛助会員になりました。今後ともよろしくおねがいたします。

個人会員

岩 淵 泰 人(大滝村)

細 川 健 司(大滝村)

◇事務局からお願い◇

諸事出費の多い時節が誠に恐縮ですが、賛助会費納入についてご協力願います。

なお、会員の皆様で、住所変更・訂正のある方は事務局までお知らせください。

編集後記

平成十六年度の事業も会員並びに関係者の皆様のご協力によりまして順調に実施でき、全事業を終了することができました。ありがとうございます。

新年度におきましても、生きがいづくり生涯学習促進事業をはじめ、新たにスタートいたします「ほっかいどう学」を基軸とした道民カレッジ大学放送講座や出前講座等、協会事業の拡充を通して北海道の生涯学習の推進・充実に努めて参りたいと考えておりますので、今後とも皆様の一層のご支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。